

あたらしくはいった本 (令和6年9月 貸出開始資料から)

- 小説 岩に牡丹(諸田玲子/著) マザー(乃南アサ/著) 共犯の畔(真保裕一/著) リミックス(今野敏/著) 多頭獣の話(上田岳弘/著) まぼろしの女(織守きょうや/著) 魔者(小林由香/著) 名探偵の有害性(桜庭一樹/著) 彼女は逃げ切れなかった(西澤保彦/著) 二人の誘拐者(翔田寛/著) 三部作(ヨン・フォッセ/著) ピアノを尋ねて(クオチャンシェン/著)
- 随筆・詩などの文学 ころは今日も旅をする(五木寛之/著) 沈黙の声(遠藤周作/著) 人生の道しるべ(宮本輝、吉本ばなな/著) 死に急ぐ鯨たち・もぐら日記(安部公房/著)
- その他の本 野崎洋光の缶詰でつくる本格和食(野崎洋光/著) 専門医ママが教える! 子どものアレルギーケア(岸本久美子/著) 歳をとった親とうまく話せる言いかえノート(萩原礼紀/著) 人も鳥も好きと嫌いでできている(細川博昭/著) 来たよ! なつかしい一冊(池澤夏樹/編)



諸田玲子/著
『岩に牡丹』
新潮社刊



乃南アサ/著
『マザー』
講談社刊



野崎洋光/著
『野崎洋光の缶詰でつくる
本格和食』 NHK出版刊

「だざいふのとしょかん 令和5年度の報告」を発行しました。
市民図書館ホームページに掲載しています。

みんなの としょかん



ホームページ

市民図書館

TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

としょかんカレンダー

令和6年	日	月	火	水	木	金	土
11						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

古代山城と大宰府(2)

本年6月号で、古代山城と大宰府の問題をとりあげました。今回はその続きです。前回、従来は大きく朝鮮式山城と神籠石系山城に分類されていたものを合わせて古代山城と呼ぶのが一般化してきたことにふれました。ただ、やはり朝鮮式、神籠石系という分類には根強いものがあります。特に1980年代の研究では、文献史料に記載のあるものが朝鮮式、一方で記載のないものが神籠石系との考え方が出てきて、現在の古代山城関係の論文でもしばしば目にします。文献記載の有無について、古代山城研究会代表の向井一雄さんは、この基準による分類の固定化が山城遺跡の多様性を見失わせたといいいます。さらに文献未記載は、神籠石の定義にはまったく含まれていなかったもので、神籠石という分類が本来もっていた考古学的な意味あいが見失われていったと指摘します。



～公文書館だより⑫～

門が付随する場合もあることが発掘や踏査によって明らかになってきています。向井さんがいうように、そのありかたはきわめて多様で、文献未記載というだけで括れるものではありません。

向井さんはさらに、80年代の研究によって、以前の年代論・築城主体論が振り出しに戻ったとも指摘しています。つまり、いつ築城されたか、そして誰が主体となって築城したかという問題です。現状では、築城年代はおおよそ7世紀初頭～8世紀初頭に集約されつつあり、一方、築城主体は中央国家か地方豪族で学説が分かれています。このことは、古代山城と大宰府との関係にとっても重要な意味をもっており、時期と主体のありかたによっては、両者の関係の再検討も視野に入ります。近年、古代山城の発掘調査も進んできたことから、その成果も取り入れつつ、この問題を考えることが求められています。

大宰府市公文書館 重松 敏彦

【バックナンバーはこちら】 ページID7241